

SAMPLE

特集レポート No. 083

# キャッシュレスの浸透と スマートフォン決済の拡大

*Strictly Confidential*



2020年2月28日

## はじめに

---

- 近年、政府の後押しや技術力の向上により、キャッシュレス決済の利用の地盤が形成され、事業者側の大々的なキャンペーンもあり利用者は大幅に増加している
- キャッシュレス決済は決済の媒体・方法や支払いのタイミングにより分類することができ、すでに市場に浸透している各種有価証券カードや電子マネーに加え、直近では PayPayやLINE Pay といったコード決済が注目されている
- 本レポートでは、近年急速に利用者を拡大しているコード決済を中心に、現状を整理した上で、今後の動向について理解する一助としたい

# 本資料の流れ

---



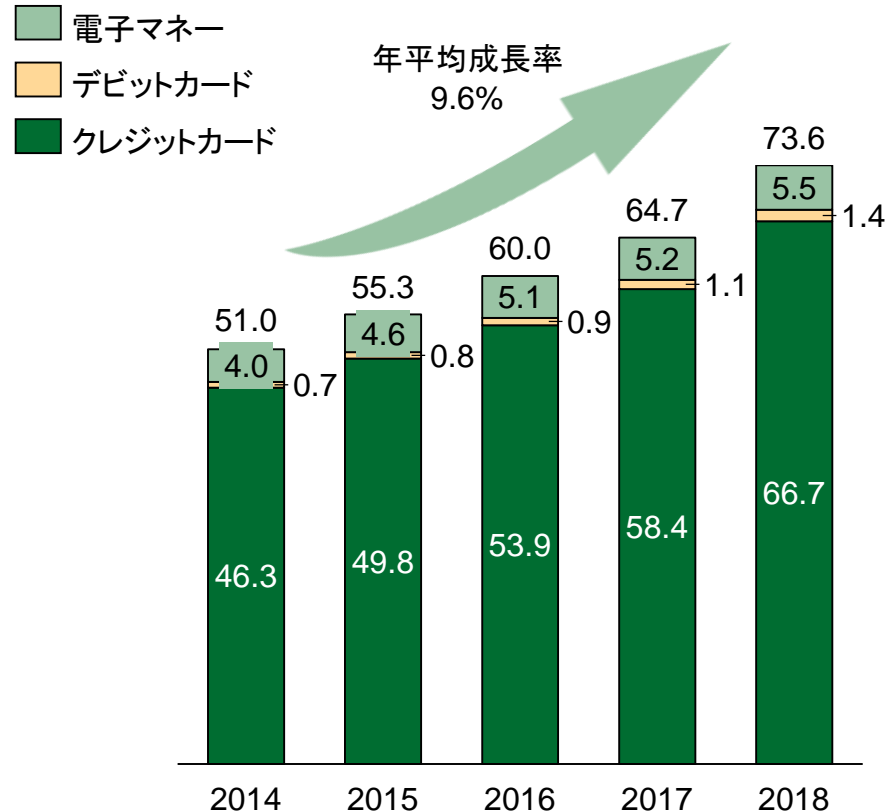
- I. キャッシュレス決済の概要と取り巻く環境
- II. スマートフォン決済の現状
- III. 国内スマートフォン決済の今後の展望

# キャッシュレス決済の市場概況

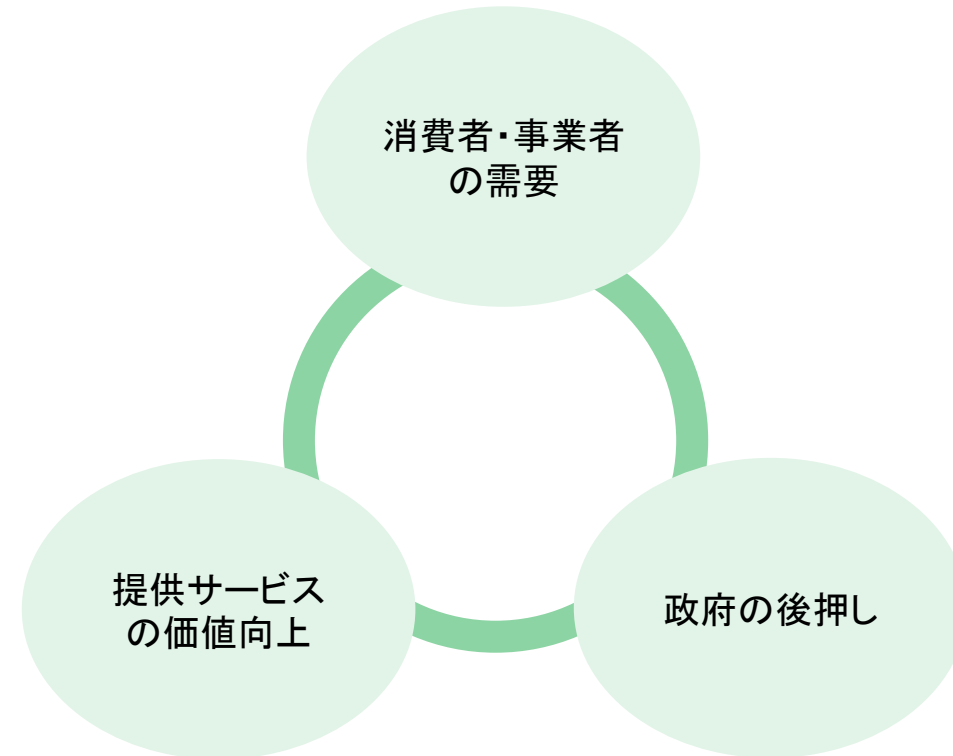
- 消費者・事業者からの需要、技術力の向上、政府の後押しなどによりキャッシュレス決済市場は順調に拡大を続けている

## 主要なキャッシュレス決済の市場規模

(単位:兆円)



## 市場拡大の背景

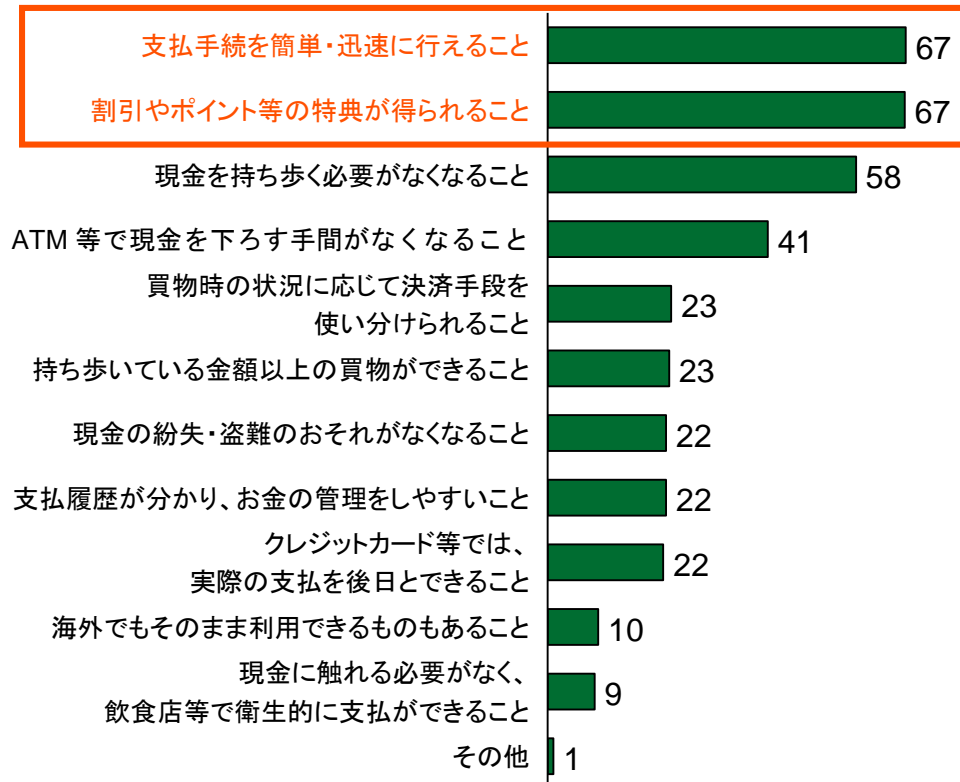


# キャッシュレス決済を活用する理由(消費者、事業者)

- 消費者は利便性や割引・ポイント、事業者は集客期待や顧客へのサービス向上が主要な動機となってキャッシュレス決済を活用している

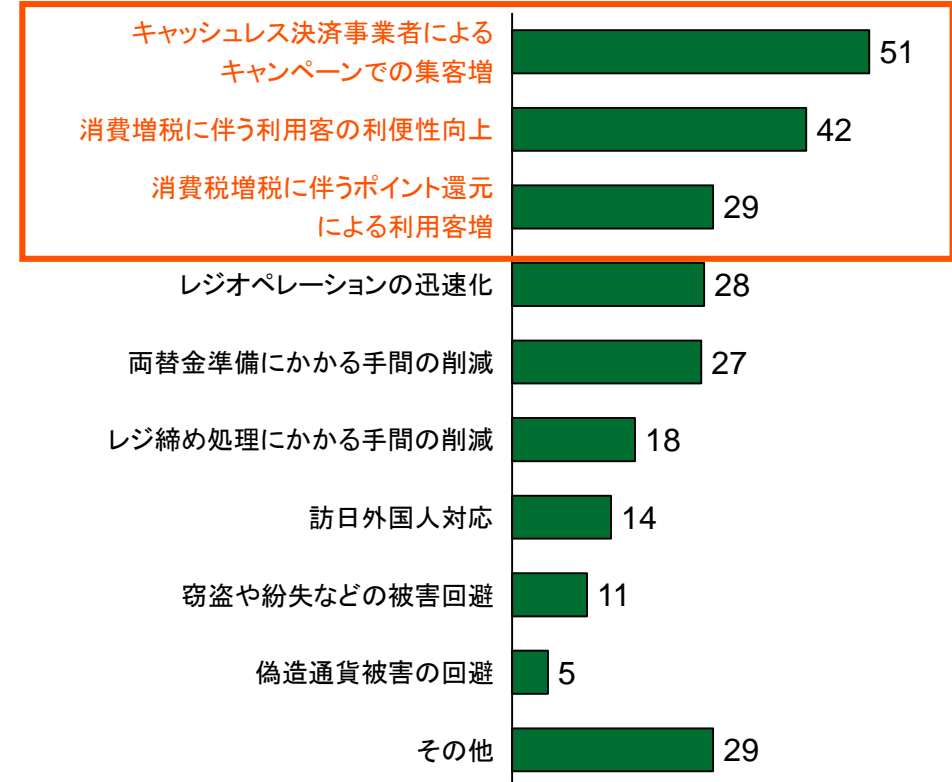
## 消費者が利用する理由

(単位:%)



## 事業者が導入する理由\*1

(単位:%)



注: \*1. 中小事業者を対象とした集計

出所: 消費者庁「キャッシュレス決済に関する意識調査結果」、株式会社デザインワンジャパン「中小事業者におけるキャッシュレス決済導入の実態調査」

# 政府のキャッシュレス促進

- 政府はキャッシュレス決済普及を促進しており、特に経済産業省の「キャッシュレス・消費者還元事業」が大きな取り組み
  - 決済事業者を経由して消費者・事業者の両方に働きかけることで普及を目指している

## 政府の方針

### 普及目標

- 2025年までにキャッシュレス決済比率を40%にする
  - 2017年時点では21.3%

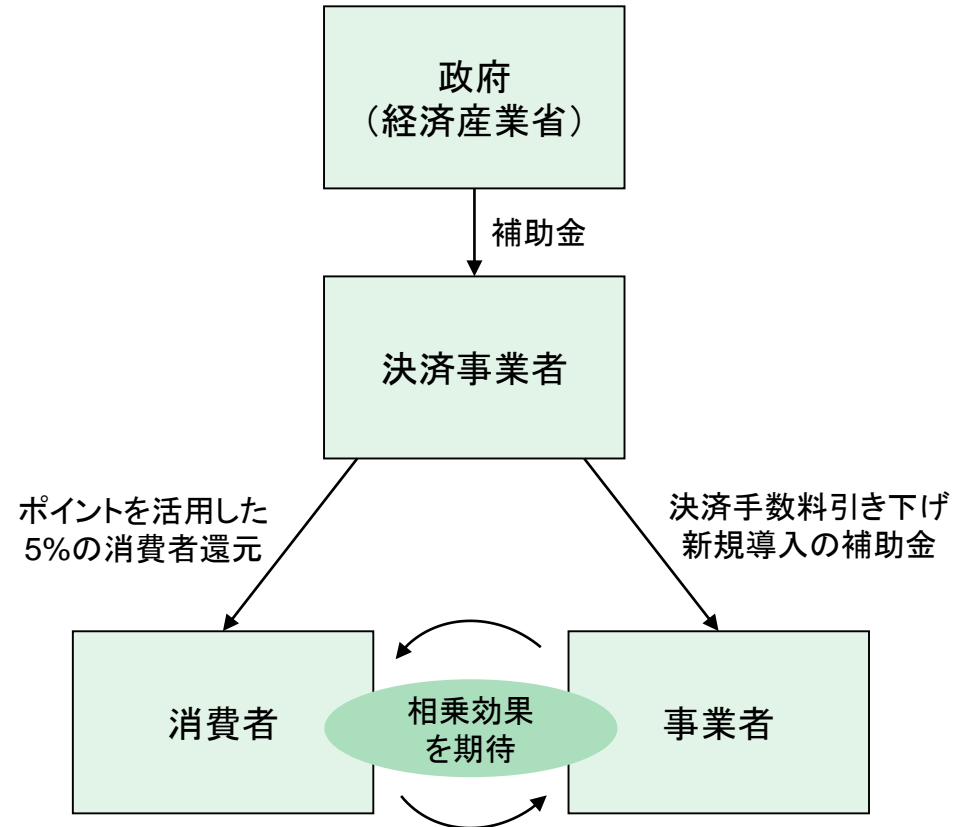
### 普及促進の意図

- 社会的背景
  - 少子高齢化による人手不足、中小事業者のIT導入の遅れ
- キャッシュレスに期待する効果
  - 店舗等の省人化による生産性向上
  - 利便性向上・データ活用による消費の活性化
  - 不透明な現金流通を抑止し税収確保...など

### 具体的な取り組み施策

- 「キャッシュレス・ビジョン」「未来投資戦略2018」の策定
- 一般社団法人キャッシュレス推進協議会の設立
- 国民運動「GO!CASHLESS2020」の推進
- 総務省による「モバイル決済モデル推進事業」
- 経済産業省による「**キャッシュレス・消費者還元事業**」

## キャッシュレス・消費者還元事業の概要



## SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。  
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

